

アゲハのかんさつパート3

千葉県流山市立流山小学校 4年
西阪 蒼海

○研究1 「たまごの数調べ」

研究を始めた理由

2年、3年の2年間、アゲハについて調べました。去年幼虫を観察していた時、全くいない木とたくさんいる木がありました。もしかしたらアゲハがたまご産む場所を選んでいるのではないかと思い、この実験を始めました。

研究の目的

アゲハの種類によって、たまごを産む場所は決まっているのか、また木によつてちがいがあつたのかを調べる。

研究1の方法

1週間に一度たまごの数をノートに記録する。

クロアゲハとナガサキアゲハは、たまごの時点では見分けがつかないので、いっしょにカウントする。

研究の結果

- ①たまごの数は、クロアゲハとナガサキアゲハを合わせてもナミアゲハのほうが4倍も多かつた。
- ②ナミアゲハについては、小さいみかんの木とわか葉に多くついていた。それに比べ、クロアゲハ、ナガサキアゲハは大きい木に多くついていた。
- ③ナミアゲハは、日がよく当たる南か西側に多くついていた。

研究から分かつたこと

アゲハの種類によつてたまごを生む場所にちがいがあつた、ナミアゲハは日なたでわか葉の場所に多く、クロアゲハはわか葉があまりない大きな木に多いということがわかりました。

場所だけでなく、この研究から1カ月に、一度くらいの間かくでたまごの数が増えることがわかりました。それは、だいたいのチョウが1カ月という同じ位の間かくでたまごから成虫になるからです。しかし、7、8月の夏の間は成虫になるまでの日数が短いので、たまごの数が増える時期の間かくも、短かつたようです。

○研究2 「ジャコウアゲハを育てる」

研究を始めた理由

友だちの家の近所にジャコウアゲハがたくさんいて、ぼくがアゲハチョウが好きなことを知つていたので、ジャコウアゲハの幼虫をくれました。

初めて見る幼虫の形にとにかくビックリしたので、家でかつて調べることにしました。

研究の目的

今までジャコウアゲハについて全く知らなかったので、図かんや本などからくわしく調べたたまごから育て様子を観察する。

研究の方法

- ①食草のウマノスズクサをさがす。
- ②しやし、記録する。
- ③成長の様子をグラフに表す。

研究の結果

- ①ウマノスズクサは、生息地がへっていて、いろいろな場所にはえているわけではない。
- ②他のアゲハは、1個ずつしかたまごを産み付けませんが、ジャコウアゲハは1つの葉のうらにたくさん産みつける。
- ③幼虫はとも食いをする。
- ④他のアゲハは、5れいになると色が変わるのにジャコウアゲハは、色が変わらない。

研究でわかったこと

ジャコウアゲハの食草は、ウマノスズクサということが図かんで調べてわかり、生息地の草むらなどいろいろな場所に行って探しましたが、なかなかみつかりませんでした。それだけ食草のウマノスズクサはき重で、それを食べるジャコウアゲハもき重だということがわかりました。図かんなどで調べると、ウマノスズクサは生息地が土地の開発などでへり、ジャコウアゲハもげん少種だということがわかりました。他のアゲハと比べ、成長のスピードはほとんど同じだけど、幼虫、さなぎの色や形などは全然ちがうということもわかりました。成虫になると、ナガサキアゲハにととても似ていることもわかりました。

まとめ

今回の研究のたまごの数調べでは、どんな天気でも、休まず行わなければいけないのと、細かく時間をかけて数を数えなければいけないのが大変でした。ジャコウアゲハを育てた時は、もらった食草がすぐになくなってしまって、どこにもはえていないウマノスズクサを探すのに本当に苦労しました。生き物を育てるといのは食草のじゅんぴやし育箱のかんきょうを整えてあげることなど、本当に大変ですが、今まで以上に生き物に対するきょう味がわきました。3年間いろいろなアゲハチョウを育ててみたが、まだ育てていないアゲハチョウもいるので研究したいです。その他、チョウをかってたまごを産ませる所からちょう戦してみたいと考えています。



1 たまごの数のグラフ
「約1ヶ月に一回たまごの数がふえている」



2 ジャコウアゲハの食草
「ウマノスズクサをみつけた」



3 たまごと幼虫
「たくさんの数のたまごと幼虫がついている」



4 ジャコウアゲハのさなぎ
「さなぎの色と形におどろいた」